



市場の混乱を乗り越え、 安定したリターンの創出を目指す

ポイント



1. 新型コロナウイルスに直面した2020年、足元までの振り返り
2. 今後も、「リスクを抑え安定的なリターンの創出」を目指す
3. 株式と債券の支え合いと、当ファンドの3つの収益源

1. 新型コロナウイルスに直面した2020年、足元までの振り返り

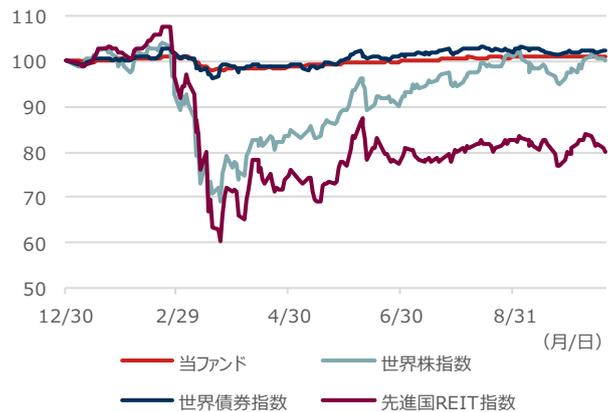
ファンドは相対的に小さな値動きに終始

世界的な新型コロナウイルス（以下、コロナ）感染拡大を背景に、年初来の金融市場は大きく上下する展開となりました。特に3月は、株式やREITだけでなく、安全資産と言われる米国債や金までもが投げ売られ、市場の混乱が一際大きくなった月でした。その後は、各国政府・中央銀行の迅速な対応もあり、金融市場は概ね反発基調に転じました。

こうした中、「野村ワールドボンド・ファンド」（以下、当ファンド）は相対的に小さな値動きに終始してきたことがご確認頂けます。前述3月の投げ売り局面においては当ファンドも下落を強いられましたが、その後は緩やかな回復基調に転じました。10月20日時点の年初来騰落率（分配金再投資ベース）は+1.2%となっており、同日の分配金再投資後基準価額は10,386円と、設定来最高値圏となっています。

次頁では、設定から2年が経過した当ファンドの、相対的に安定した値動きについてもう少し掘り下げ、今後の見通しについてご説明したいと思います。

年初来の基準価額（分配金再投資）推移



設定来の基準価額（分配金再投資）推移



上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

2. 今後も、「リスクを抑え安定的なリターンの創出」を目指す

ファンドの運用目標と、これまでの実績

当ファンドは先進国の国債等を実質的な主要投資対象とし、為替ヘッジ比率を高位に保ちつつ柔軟に調整することで、リスクを抑え安定的なリターンの創出を目指しています。米中貿易摩擦激化やコロナ・ショックなど、当ファンド設定日（2018年8月17日）から足元までの金融市場は、記憶に残る混乱に度々見舞われました。結果として、株式やREITに代表されるリスク資産の値動きは大きくなる傾向がありました。

こうした環境の中、当ファンドの年率リターンは1.9%、年率リスクは2.1%となりました（2018年8月末～2020年9月末）。これまでのところ、前述のファンドの運用目標を一定程度達成できているものと考えています。

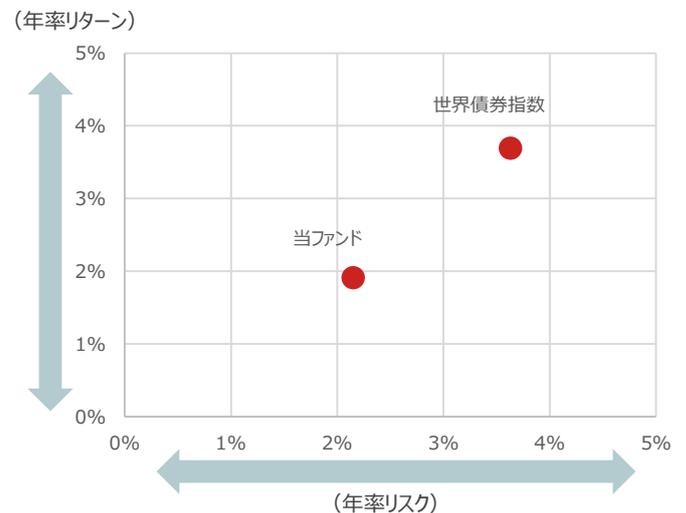
今後の見通し

過去半年、株式市場は力強く反発しましたが、米国政治の行方や欧州におけるコロナの再拡大など、足元で再び不透明感が強まっています。

実体経済の回復は世界的に依然として鈍く、そのため、日本だけでなく米国や欧州においても、中央銀行による低金利政策や資産購入プログラムは継続されるものと考えます。市場参加者の米欧政策金利予想を見た場合、大きな金利の引き上げを予想する見方は少数であることが分かります。これらは、当面の間、当ファンドにとって安定的な投資環境が続くと考える背景にもなっています。

当ファンドはこれからも、大きなリスクを取らずに資産形成をしたい、そう考える個人・法人の投資家様に寄り添うことができるよう、値動きを抑えた運用に努めてまいります。

設定月末来の リスク・リターンの分布（年率換算）



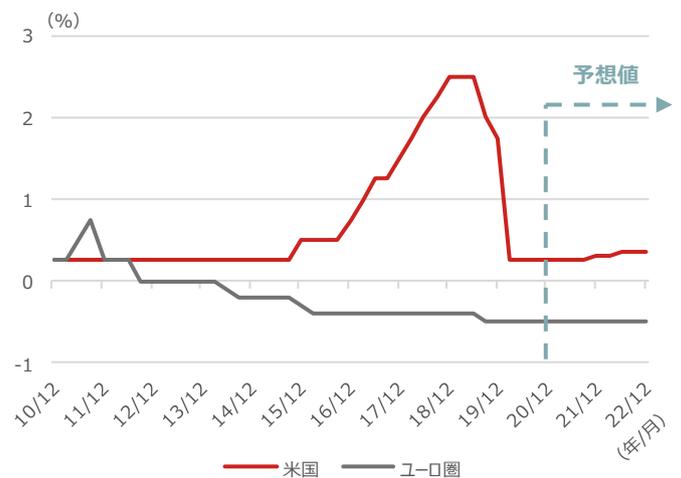
期間：2018年8月末（設定月末）～2020年9月末、月次

（注1）当ファンドの基準価額（分配金再投資）については4ページをご参照ください。

（注2）指数については4ページをご参照ください。円換算ベースです。

（出所）ブルームバーグなどのデータを基に野村アセットマネジメント作成

米国、並びにユーロ圏の 政策金利の推移と、市場参加者による予想値



期間：2010年12月末～2022年12月末、四半期毎

（注1）2020年12月末以降はブルームバーグが公表する予想値

（注2）米国の政策金利はフェデラルファンド（FF）金利誘導目標水準（上限）、ユーロ圏の政策金利はECB預金金利を使用しています。

（出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご注意事項】を必ずご覧ください。

3. 株式と債券の支え合いと、当ファンドの3つの収益源

株式と債券の間の相互に支え合う関係

右グラフは、世界株指数と世界債券指数の四半期毎の騰落率（過去10年間）を示したものです。各資産本来の値動きに焦点を当てるため、米ドル円の為替の影響を除外した、米ドルベースで見えています。左下部分は株式も債券も下がった局面ですが、そのような局面は過去10年間（全40ケース）で3回のみでした。この10年間について見れば、株式と債券のいずれかが下がる場合には、もう一方の資産は上がる関係にあったことがわかります。

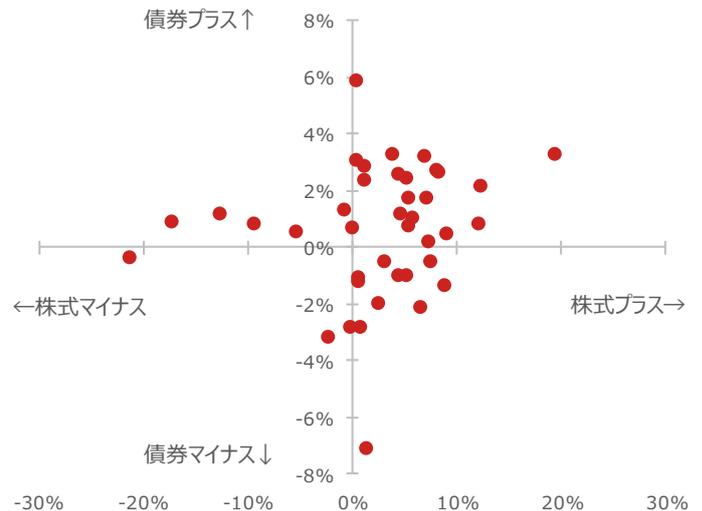
当ファンドの実質的な主要投資対象は先進国の国債等です。当ファンドを株式や株式ファンドと併せ持つことで、株式と債券の間の相互に支え合う関係に類似した効果が期待できると考えられます。

安定的なリターンを生み出す3つの収益源

当ファンドが主に投資する世界債券ファンド*は、先進国の国債等を投資対象としていますが、安定的なリターンを生み出す源泉は主に3つあります。

1つ目は為替ヘッジコストを加味した利回りです。金利水準やその国の金融政策の方向性など経済環境を総合的に判断し、投資する国・地域を選定します。2つ目は金利リスクの調整です。金利低下時に債券価格上昇によるリターンを獲得すると共に、金利上昇時は債券価格下落による悪影響を抑えることを目指します。3つ目は、為替変動です。為替ヘッジ取引を行って為替変動の影響を抑えながらも、円安が想定される場合は、為替ヘッジ比率を下げて為替差益獲得を狙います。

株式と債券の四半期毎の騰落率（過去10年）



期間：2010年9月末～2020年9月末、四半期毎リターン（40四半期）

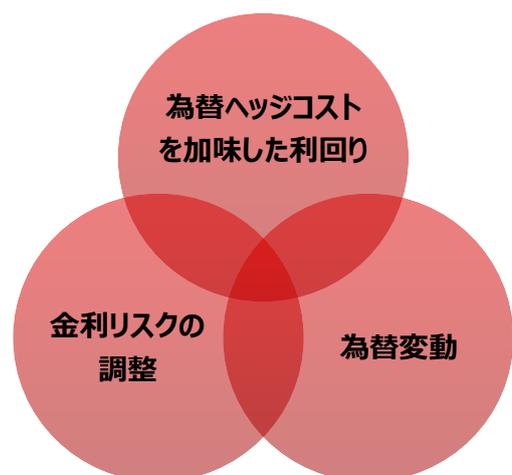
株式：MSCI All Country World指数（配当込み、米ドルベース）

債券：Bloomberg Barclays Global Aggregate指数（トータルリターン、米ドルベース）

（出所）ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

上記は過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界債券ファンド*の3つの主な収益源



*世界債券ファンド：グローバル債券マザーファンド
（作成）野村アセットマネジメント

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

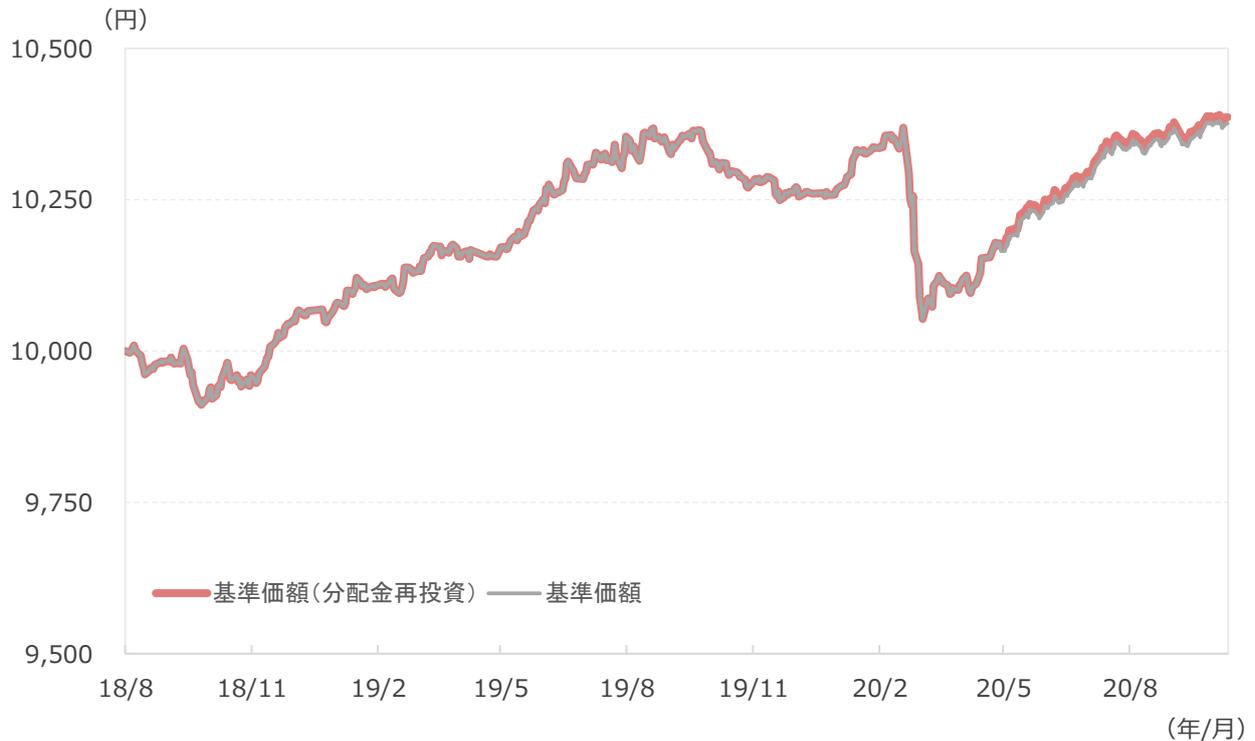
*後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご留意事項】を必ずご覧ください。

「野村ワールドボンド・ファンド」

ファンドの運用状況

ファンドの基準価額の推移

期間：2018年8月17日（設定日）～2020年10月27日、日次



基準価額（分配金再投資）とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したものと計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

<当資料で使用した指数について>

世界株指数：MSCI All Country World指数（配当込み、円換算ベース）
 世界債券指数：Bloomberg Barclays Global Aggregate指数（トータルリターン、円換算ベース）
 先進国REIT指数：S&P Developed REIT指数（配当込み、円換算ベース）

<当資料で使用した指数の著作権等について>

- MSCI All Country World指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。また、MSCIは同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。パークレイズは、ライセンスに基づき使用されているパークレイズ・バンク・ピーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・パークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。
- S&P Developed REIT指数は、スタンダード・プアーズファイナンシャルサービシズエルエルシーの所有する登録商標です。

上記は過去の運用実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

* 後述の【投資リスク】【当資料について】および【お申込みに際してのご注意事項】を必ずご覧ください。

「野村ワールドボンド・ファンド」

【ファンドの特色】

- 信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いません。
- 世界各国の公社債を実質的な主要投資対象*とします。
※「実質的な主要投資対象」とは、「グローバル債券マザーファンド」を通じて投資する、主要な投資対象という意味です。
- 投資する公社債は、投資時点においてBBB格相当以上の格付（格付がない場合は同等の信用度を有すると判断されるものを含みます。）を有する公社債とし、日本を含む先進国の国債等（国債、政府保証債、政府機関債、国際機関債、地方債）を中心に投資します。
- 市場環境、利回り水準、為替ヘッジコスト等を勘案して国別配分、通貨配分、デュレーションの水準を決定し、ポートフォリオを構築します。なお、ポートフォリオのデュレーションは、原則として0～8年の範囲内で調整します。
- 効率的な運用を行なうため、債券先物取引等のデリバティブ取引を利用する場合があります。
- 実質組入外貨建資産については、円建資産の額と外貨建資産のうち為替ヘッジ（他通貨による代替ヘッジを含みます。）を行なった資産の額との合計額（実質的な円建資産の額）を、原則として信託財産の純資産総額の90%±10%程度に維持することを基本とします。
- ファンドは「グローバル債券マザーファンド」を通じて投資するファミリーファンド方式で運用します。
- 原則、毎年5月15日（休業日の場合は翌営業日）に分配を行いません。
分配金額は、分配対象額の範囲内で、原則として基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。

*委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

「野村ワールドボンド・ファンド」

【投資リスク】

ファンドは、債券等を実質的な投資対象としますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

【お申込メモ】

- 信託期間 2028年5月15日まで(2018年8月17日設定)
- 決算日および収益分配 年1回の決算時(原則、5月15日。休業日の場合は翌営業日)に分配の方針に基づき分配します。
- ご購入価額 ご購入申込日の翌営業日の基準価額
- ご購入単位 1万口以上1口単位(当初元本1口=1円)または1万円以上1円単位
※ご購入単位は販売会社によって異なる場合があります。
- ご換金価額 ご換金申込日の翌営業日の基準価額
- スイッチング スwitchingのお取り扱いのある販売会社では、「ストップライン付き野村ワールドボンド・ファンド」の換金代金をもって当ファンドへのスイッチングが可能です。スイッチングの方法等は、ご購入、ご換金の場合と同様です。
- お申込不可日 販売会社の営業日であっても、申込日当日が、「ニューヨークの銀行」の休業日に該当する場合には、原則、ご購入、ご換金、スイッチングの各お申込みができません。
- 課税関係 個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時(スイッチングを含む)および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、少額投資非課税制度などを利用した場合には課税されません。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

【当ファンドに係る費用】

(2020年10月現在)

◆ご購入時手数料	ありません。
◆運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に年1.023%(税抜年0.93%)の率を乗じて得た額が、お客様の保有期間に応じてかかります。
◆その他の費用・手数料	組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、ファンドに関する租税等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。
◆信託財産留保額(ご換金時、スイッチングを含む)	ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

《分配金に関する留意点》

ファンドは、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

投資者の個別元本(追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本)の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

◆設定・運用は **野村アセットマネジメント**

商号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/
一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ファンドの基準価額等についてのお問い合わせ先：野村アセットマネジメント株式会社

●サポートダイヤル ☎ 0120-753104 <受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

●ホームページ

<http://www.nomura-am.co.jp/>



【当資料について】

- 当資料は、ファンドに関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

【お申込みに際してのご留意事項】

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

野村ワールドボンド・ファンド

お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社新生銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。